

食品産業生産性向上フォーラムin 大阪 開催結果報告

2018年7月5日（木）13時より御おっ坂商工会議所にて、「食品産業生産性向上フォーラムin大阪」を開催した。参加者総数は144名、うち食品関係者が88名であった。他、ロボット機械関係18名、コンサル関係16名、政府・公共機関17名、メディア1名、その他4名であった。フォーラムの内容は下記のとおり。

1. 趣旨説明（農林水産省食料産業局 新井 ゆたか審議官）

農林水産省では今年初めて食品産業の生産性向上フォーラムを開催する。現在、人手不足や事業継続性等問題が深刻化する中、如何に企業の生産性を上げるか、職員にとって働きやすい環境を作っていくかについて皆様が悩んでいるところである。特にコストを下げるためには如何に工夫するか、本日、基調講演等を通して意見交換をいただきたい。

日本では食品産業が一番職員の多い産業であり、食品産業の労働生産性を上げないと、日本全体の製造業の労働生産性が上がらないと考える。一方で、雇用を広げていくことは、生産性向上にとって本当に良いことかなどの問題も考えるべきである。本フォーラムを通し、色々な結び付きができるにより、皆様が労働生産性向上のきっかけを掴んでいただければと考える。



新井ゆたか審議官趣旨説明

2. 基調講演（食品生産性向上フォーラム企画検討委員長 弘中泰雅氏）

加工型食品製造表の生産性は製造業平均の約50%しかなく、生産性はギリシャと同レベルであり、中進国レベルであるのが現状である。食品産業において生産性が低い理由として、中小零細企業が多いためと言われているが、実はそうではない。生産性低迷の原因は歴史から探る必要がある。終戦後暫くは、食品の生産性は、自動車等の他の製造業より高くすらあった。しかし、終戦後、自動車産業は“昭和の遣唐使”の効果があがりぐっと伸びていった。食品産業からの参加者はほとんどなく、経営者の意識改革ができなかった。日本の食品製造表の給与は製造業平均の6割しかないのが現実である。給与が良いところには人は入っていくので、この点を食品生産性は反省すべき点である。食品製造業が低迷した原因は、「自動車産業と異なり、食品産業はマネジメント経営を取り入れられなかったこと」、「経営者の低い意識のせいで、第三次産業革命に取り組みなかったこと」、「低い労働の質（低いITリテラシー）」の3点が挙げられる。

3. 基調講演（一般社団法人 日本ロボット工業会 高本治明氏）

国内の人手不足は近年深刻な状況であり、特に食品産業では悲惨ともいえる状況である。そのため機械化への期待や、ロボット出荷額も伸びており注目度も高い。先進技術、AI技術の発展により、導入が可能になった食品産業でのロボットの使われ方の具体的な説明と、あるいは導入しても生産性の低下を招く場合があるケースなど、ロボットとはどのようなものかを紹介しつつ、導入時のポイントやメリット、リスクについて説明いただいた。

4. 先進事例紹介（株式会社神戸屋 関西事業本部 事業第1部 東淀製パン2課 課長 横山真也氏）

「生産性対前年120%」と目標を立て、食品製造の工程「①仕込み工程」、「②成型工程」、および「③仕上げ工程」を中心に、付加価値生産性を上げるための改善活動を実施した内容を紹介。

現場における取組事例として、①流量UP：ケーキ生産時のタクトタイム②材料管理：配管内残存材料のムダ改善③要員削減：クワッサン成型時の手直し要員削減を紹介いただいた。

また、管理部門における取組事例として、①基本工程における実-標準差異の記録、②ガントチャート・ヒストグラムの活用を紹介いただいた。

5. 先進事例紹介（株式会社バイナス取締役営業部長 下間篤氏）

愛知県にあるロボットアプリケーションの製造販売を行っている会社。工業高校向けにFA教育事業を実施、教育教材装置の製造販売も行う。分野は問わず食品関連にも取り組んでいる。これまで開発してきた食品関連のロボット関連9事例を動画により、解りやすく紹介いただいた。特に、傷つきやすい食品をエアーを利用し非接触で移送するハンドや、触覚センサを用い対象物を繊細に掴む等、食品ならではの高度な技術を紹介いただいた。

6. 生産性向上支援事業者によるプレゼンテーション

下記の支援事業者12社よりプレゼンテーションをいただいた。
エムジェイ・エムジー [コンサルティング]、パナソニック [コンサルティング]、日本能率協会コンサルティング [コンサルティング]、I Smart Technologies [コンサルティング]、シナプスイノベーション [コンサルティング]、農研機構 [研究機関]、ニチワ電機 [厨房機器]、CKD [ロボット]、オムロン [ロボット]、三菱電機 [ロボット]、スズキ麺工 [SIer]、オフィスエフエイコム [SIer]

7. 交流会

後半プレゼンテーションでは、隣室に交流会場を設置し同時に交流会を実施。講演者やプレゼン事業者と交流を行った。



フォーラム風景